

2023 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

吉 田 崇 (関西医大)

このたび、Chicagoで開催されたAUA annual meetingに引き続き、5月3日から約3週間、JUA/AUA Exchange ProgramとしてDetroitにあるHenry Ford Hospitalおよびその関連病院で研修させていただきました。

かつてDetroitは、自動車産業の破産により治安が著しく悪化しましたが、現在は様々な企業の参入によって再び活気を取り戻しつつある都市です。私が伺ったHenry Ford Hospital周辺には、沢山の美術館やマイケル・ジャクソンなどがレコーディングで使用したMotown Museumがあり、アートにあふれる街でした。

今回の滞在は、手術見学を主にさせていただきました。Henry Ford Hospitalはロボット支援前立腺全摘除術(RALP)を世に広めた病院として世界的に有名です。しかし、私の滞在中、たまたまかもしれませんがRALPは数件のみで、focal therapyの発展により以前と比べると減少傾向にあると部長のDr. Craig Rogers (写真1)も仰っておられました。とはいえ、通常の手術(膀胱全摘、腎部分切除、根治的腎摘除術など)は全てロボットで行われ、やはりその道では驚くほどの症例経験を積まれておられました。今回の滞在中で印象的であった手術として、前医で誤って前立腺内に膿形成されたトランスジェンダー症例に対する、Da Vinci SPを用いた膿拡大術を見ることが出来ました。また、300gを超える前立腺肥大症に対しては、前立腺尖部周囲をHoLEPで核出後、Da Vinci Xiで経膀胱的に被膜下前立腺摘除術を行う、



写真1 Dr. Craig RogersとDa Vinci Xi “Mani”の前にて

“RoLEP (と冗談で名付けられていました)”で完遂しておられました。たとえChallengingな症例であっても、果敢にトライしていく姿勢に感銘を受けました。

Grand Roundsという毎週開催されるカンファレンスにも参加させていただきました。通常の症例相談の他、様々な分野のエキスパートを迎え講演を拝聴するととても有意義な時間でした。節税や投資など、金融リテラシーの講義もあり、それが議題として取り上げられていたことに驚きつつも、医師にとって大変意義のある内容だと感じました。また同カンファレンスにて、私自身が開発する上部尿路腫瘍に対するPDD併用内視鏡手術について発表する機会をいただき、多くの先生方が手術手技のコンセプトにご賛同くださったことは大変光栄でした。

リサーチミーティングは、臨床研究で御高名なDr. Firas Abdollahを中心に数々のプロジェクトを進めておられました。私もそのプロジェクトの一つに加入させていただき、帰国後も共同研究として継続しております。また何より本滞在中で私が得た貴重な出来事として、Shane Tinsley君(写真2)という友人が出来たことです。彼は高校卒業後、直接メディカルスクールへ入学を許可された秀才で、まだ学生ですがリサーチフェローとして多くの研究プロジェクトに携わっています。彼は訪問初日から私の身の回りのサポートや人との懸け橋役を数多く担い、滞在中を充実したものにしてくれました。近い将来、彼に恩返ししたいと考えています。

最後になりましたが、このような貴重な経験を与えてくださりましたJUAおよびAUA両学会の関係者の皆様、コーディネーターのMarielle、推薦くださりました木下秀文教授、快く送り出してくださいました医局の先生方、そして温かく私を受け入れてくださりましたDr. Rogersとそのご家族には心より感謝申し上げます。



写真2 Shane君と釣りをしにDetroit riverへ